中国語の列挙助詞から日本語の「など」と「(の)ような」の異同を見る[1]

馮　元

キーワード：中国語、列挙助詞、「など」、「(の)ような」、コーパス

要　旨

これまでの日本語研究においては、「など」は助詞、「(の)ような」は助動詞として扱われ、同じ軸の上で扱われることはなかった。一方、中国語文法論には並列表現の後に続く“等”[2]や“一类”、“这样”、“之类”などを「列挙助詞」としてまとめる見解がある。列挙助詞というのは、列挙されるものをまとめる、ある種のグループを示す助詞である。この分類を採用することにより、より包括的な対照の枠組みを作ることが可能になると考えられる。また、中国の日本語教育の現場では、このような対照の枠組みの整理が不十分であることから、既存の教材を使った指導だけでは日本語学習者の「列挙助詞」の習得に結びついていないという印象を受ける。本稿では、コーパスを使用して用例を抽出し、考察することにより、日本語では「(の)ような」と比べて「など」の配慮性がやや弱いことを明らかにした。一方で、中国語では、コーパスデータに基づいて、“等”、“这样”と比べ、“之类”、“一类”の配慮性がやや弱いことを明らかにした。

1. はじめに

日本語において、「など」は助詞、「(の)ような」は助動詞として扱われ、同じ軸の上で扱われることはなかった。しかしながら、両者とも同様に例示の意味を持つこ

[1] 本論文は江西省社会科学研究规划项目《基于语料库的日语对现代汉语的影响研究》（項目号：19YY24）の研究成果である。

[2] 本稿では、日本語は「 」で括って表記し、中国語は“ ”で括って表記する。

とは明らかである。また、日本語教育の教材では、意味の記述が中心で、この二つの形式を合わせて扱っていないため、両者の違いが分からず、学習者が習得しにくい状況になっているものと見える。そこで本稿の目的は、意味的な共通点を持つこれらの形式の相違点を明らかにすることである。

2. 先行研究

前述したように、「など」と「(の)ような」を合わせて扱った先行研究はないため、ここでは日本語の「など」に関する研究と中国語の列挙助詞に関する研究を挙げる。

まず、山口堯二（1988）は、「など」には「例示性」、「代表性、重視性、軽視性」「概要性、婉曲性、反撥性」、「包括限定性、提示性」があることを述べている。また、これらを整理すると「同類例示性」、「周辺暗示性」、「同種暗示性」を持つ 3 つの場合に大別できるとしている。この山口（1988）が「など」の多様な意味や機能を述べたことを皮切りに、「など」に関する議論が活発化されたように見える。

次に桜岡卓（2012）では、「なぞ」は「擬似的例示」として用いられることが多く、現代語の「など」に近い一方で、「なんぞ」は「否定的特立」として使用されることが多く、現代語の「なんか」に近い使用が見られることが指摘されている。

続いて陈连冬（2016）は、「など」は同類の存在を表す形式から、徐々に話し手の主観的評価、特に否定的評価を表す形式に変わったことを指摘している。

このような先行研究を含め、否定的・反語的表現のなかで使われる係助詞的な「など」が、それを受ける語に対する話し手の低い評価・軽視を表すことは、辞書などにも記載があるが、最初に「など」の「話し手の高い評価・重視」を表す機能を指摘したのは今井喜昭（1995）である。一方、最近の研究においては、「など」には「否定的用法」が多いと指摘されている。

また、中国語の“一类/之类”、“这样的/那样的”、“等/等等”は、いずれも列挙助詞と呼ばれている。中国語の列挙助詞に関する研究やそれらと日本語との対照研究はあまり進められていない。ただし、馮元（2017）では、中国語の“等/等等”が日本語の「など」と対応し、中国語の“一类/之类”と“这样的/那样的”は日本語の「(の)ような」と対応していると指摘されている。しかし、本稿では、配慮性の観点から見ると、“一类/之类”は「(の)ような」ではなく、「など」に近い点が見られることを指摘したい。

3. 調査結果と考察

ここでは用例調査の結果を示した上で考察を行う。

まず、「など」は「なぞ」などに由来するものだと言われている。『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下、BCCWJ）で時期別に検索したところ、「など」を含む例文は1970年代に1919例、1980年代に8872例、1990年代に28699例、さらに2000年代に141034例見られた。

次に「(の)ような」は「ようだ」の連体形であり、「やう（様）＋なり」に由来する形式である。「など」と同じ手段で「(の)ような」を検索したところ、時期による差は「など」ほどは大きくなかった。具体的には 1970 年代に 1384 例、1980 年代に5372例、1990年代に14332例、2000年代に41814例見られた。表1に2000年代の各形式の出現数を示す。

表１　各形式の出現数

	など	(の)ような
総用例数	141034	41814
分析対象用例数	111	269
実質対象用例数	100	100

表1の「総用例数」は2000年代の資料中に現れた全用例数、「分析対象用例数」は「実質対象用例数」が100例になるまで、例外なども含めて抽出した例文の数である。この例外というのは、例えば、「など」であれば、前接するものが動詞の場合であり、「(の)ような」であれば、比喩を表すものや指示語が前接するもののことである。「実質対象用例数」が、実際に分析対象とした数であり、両者とも前接するものが名詞や名詞化したものである例文に限定した。

次に、陈（2016）を参照し、二つの観点から「など」と「(の)ような」を考察してみる。この二つの観点は①前接要素が単一要素か複数要素か；②述語が肯定的か否定的か、というものである。ここではランダム調査として、両者とも BCCWJ コーパスから抽出した2000年代の前掲100例を実質分析対象としている（検索には「少納言」を使用した）。

まず、前接要素が単一か複数かという点と肯否性とを組み合わせて用例数を示したのが表2である。

表 2　前接要素と肯否性から見た用例数

	単一要素		複数要素	
	肯	否	肯	否
など	40	11	46	3
(の)ような	71	23	5	1

それぞれの例文は以下の通りである（以下、下線や括弧は筆者によるものである）。

(1)　この後、ごみを町の指定袋に入れるゲームなどが行われました。
（広報紙）（単一要素、肯定）

(2)　未納期間に応じて利用者負担が３割に引き上げられるほか高額介護サービス費などが受けられなくなります。（広報紙）（単一要素、否定）

(3)　境界の調整線引きの境界となっていた道路や地形などが変化している場合は、それに合わせて、境界を変更。（広報紙）（複数要素、肯定）

(4)　助産院で産んだのですが、促進剤、会陰切開などの医療処置は一切なし、もちろんお腹を押されることもなく、自然に出てくるのを待ちます。
（Yahoo!知恵袋）（複数要素、否定）

なお、本稿では、述語が肯定的な例文であるとしても、否定的な意味が読み取れる場合や、マイナスなイメージが強いという特徴を持つ場合には否定的用法として扱っている。このような否定的用法について陈（2016）は1980年から「など」に発生した新しい用法―「否定評価」であると解釈している。例えば、以下のような例文が挙げられる。

(5)　他の諸文明が容易に受け入れ、まして使いこなすことなど不可能に近いという確信である。（新「帝国」アメリカを解剖する）

表 2 からわかるように、「など」の場合、前接要素が単一要素か複数要素かは、特に差が表れておらず、それぞれ51%と49%である。一方、「(の)ような」は主に単一要素に集中している（96%）。この差は、両者とも例示の意味があるものの、語のニュアンスが異なっていることに起因する可能性がある。例えば、(6a)(7a)のような例文

がよく見られるが、この 2 文において、統語的には(6b)(7b)のように「など」と「(の)ような…」は互換できる。

(6) a. リンゴ、バナナ、みかんなどを買ってきて。（作例）
　　b. リンゴ、バナナ、みかんのような果物を買ってきて。（作例）
(7) a. みかんのような果物を買ってきて。（作例）
　　b. みかんなどを買ってきて。（作例）

しかしながら、やはり例文(6b)(7b)と比べ、例文(6a)(7a)の方が自然度が高く感じられる。それは(6a)は例示より、列挙の意味合いが強く読み取れるからである。複数の果物を挙げることにより、「いろんな果物を買ってきてほしい」という心理的言語が伝わると考えられる。一方、(6b)の自然度が(6a)よりも少し低く感じられるのは、(6b)は「(の)ような」を使うことで、同類例示の意味が強まり、この三つの果物でどのようなカテゴリーが形成されているのかということが、すぐに思いつかないことに起因しているものと見える。しかし、この文が成立するのはすべてが果物というカテゴリーに属していて、さらに例えば、話し手と聞き手が認知している「自分の家族がいつも食べる（買う）果物」であるといった要素も想像できるからである

また、(7a)では「(の)ような」に単一要素「みかん」が前接し、「みかんのような果物」で柑橘類を例示しているイメージがすぐわかる。一方で、(7b)のように、「みかんなど」と言った場合、同種の柑橘類を買ってこようという意識は働かず、「みかん以外何の果物を買えばいいか」と聞き手が戸惑う可能性がないとは言えない。

さらに、「(の)ような」の否定的用法は「など」よりやや多く見られる（24％＞14％）。「など」に「否定的用法」が多く見られることは、最近の研究で述べられているが、コーパスでの用例数や比率を見ると、「など」はまだ肯定的な用法が主流であると言えるだろう。例示の働きに比べれば、否定評価の働きはより臨時的だと考えられる。ただし、複数要素と比べ、単一要素の場合、否定的用法が表れやすいという特徴も見られる。

次に、「など」、「(の)ような」に接続する助詞をみる。接続する助詞別に用例数を示したのが表 3 である。例えば、(8)は格助詞ガが接続している例であり、(9)は格助詞ヲが接続している例である。また、(10)のような「など」の前接部分と述語との間に助詞が付いていない場合、還元型として判断し、(10)はヲ格であるとした。なお、表中の引用ト類は「ト」や「トイウ」等が接続するものであり、「デアル」は(11)、

(12)のように、名詞述語文で表されるものである。

(8)　雨などが降った場合に滑りやすくなる。
（エコ&ヒーリング・ランドスケープ）

(9)　以下のような利点を有している。（社史の研究）

(10)　財産争いなどするものか。（栗本薫の里見八犬伝）

(11)　以下のようなケースです。（現代家事調停マニュアル）

(12)　中央に斧をつけた束桿などでした。（エトルリア文明）

表 3　各形式に接続する助詞別の用例数

	格助詞					係助詞	引用ト	デ　ア	合計
	ガ	ヲ	ニ	デ	ノ	ハ	類	ル	
など	14	17	9	3	29	8	9	2	91
(の)ような	13	27	12	6	9	7	1	15	90

表 3 から分かるように、「など」と「(の)ような」には以下の四つの点で違いが見られる。

1) 「など」のノ格接続は「(の)ような」より多い（29＞9）。
2) 「など」の引用ト接続は「(の)ような」より多い（9＞1）。
3) 「など」のヲ格接続は「(の)ような」より少ない（17＜27）。
4) 「など」のデアル接続は「(の)ような」より少ない（2＜15）。

次に、形式間の互換性を見る。特に人に関わる事態の場合について考察する。

(13)　彼のような優秀な学生は合格するに違いない。
像他那样优秀的学生肯定能通过。（陈丹 2010:19）

(14)　田中さんのような人はみんな嫌いです。
大家都讨厌像田中这样的人。（陈丹 2010:19）

(15)　彼女のような言い方はいけない。
像她那样的说法可不行。（陈丹 2010:19）

この三つの文では、いずれも「など」に置き換えられない。あえて置き換えてみる

とすると(13)の例文で、「彼など」と言った場合には、(16)のように否定的な意味を持つ内容が後に続くことを想像させる。

(16)　彼などは、合格できるはずがない。　（作例）

(14)の例文は後に続く内容が「嫌いです」という否定的な内容なので、置き換えられる可能性もある。しかし、「田中さんなど」という言い方をすると、この「など」は「代表例の例示」ではなく、「なんか」のように、否定の評価をより強く下している印象を受ける。つまり、(14)と(17)を比較してみると、ほぼ同じ意味合いではあるものの、感情の強さの違いが感じとれるということになる。

(17)　田中さんなど、嫌われ者ですよ。　（作例）

(14)の例文では感情が隠れているように見えるが、(17)でははっきりと嫌悪の感情をあらわにしていると言える。なお、(15)では、文法的に「など」を使うことが難しく、言い換えることはできない。

続いて、山岡・牧原・小野（2010）は、対人的コミュニケーションにおいて、相手との対人関係をなるべく良好に保つことに配慮して用いられる言語表現を、「配慮表現」と定義している。また、牧原（2012）は(18)の例を挙げ、曖昧さを表す副助詞「でも」について、「『コーヒー』以外でも構わないという話者の意志を明示し、飲む対象を限定しないことによって聴者に選択権を与えており、それによって配慮を表す例である」と説明している。

(18)　ちょっと、コーヒーでものみませんか。　（牧原 2012:8）

なお、人を指す場合、主に「など」を使わずに、「(の)ような」を使う原因も牧原（2012）の指摘によって説明し得る。「など」も「(の)ような」も例示の意味があるが、それ以外にも、それぞれ独自の意味を持っている。「など」には（6a）の「リンゴ、バナナ、みかんなどを買ってきて」のようにそのもの自身を列挙する意味と前述の通り「否定的評価」の意味とがある。一方、「(の)ような」には比喩、様態の意味がある。曖昧な表現は日本語表現の一つの特徴であり、配慮表現もその一つである。これを踏まえれば、人を指す場合に「(の)ような」を使うと、相手に与える心理的負

担が少なくなると解釈することができる。

それに対して中国語では、“一类/之类”と“这样的/那样的”が同様に振る舞っているように見えるものの、厳密には、人を修飾する際においては“这样的/那样的”を使う傾向が強くなるという違いが観察される。これは、“一类/之类”が人を修飾する場合にはマイナス評価的なニュアンスが生じ、日本語の「なんか」に相当する意味合いが読み取れるためである。

また、中国語のコーパス（現代汉语语料库（BCC コーパス））を使い、“这样的人”と“之类的人”をそれぞれ検索した結果、“这样的人”は 120 例、“之类的人”は 1 例見られた。後者の 1 例は(19a)のように軽蔑の意味合いで使われており、中日対訳コーパスにおいては、これが(19b)のように「類（たぐい）」と訳されている。日本語で「類」には強い否定例示の意味合いがある。

(19) a. 从他的笑，我可以判断屋里还有什么人，不是那些像朱科长<u>之类的</u>人物就是女客人。

b. 彼の笑い声から私は部屋のお客がどんな人だか推測できた、あの朱課長<u>の類の</u>人物か、さもなければ女の客だ。　（中日対訳コーパス：天云山传奇）

同じく、BCCWJ で「など」と「(の)ような」をそれぞれ 250 例ずつ取り上げ、人と関わる用例の数を見ると、「など」は 9 例、「(の)ような」は 50 例見られた。(20)(21)の例文からもわかるように、中国語と同様の傾向が見られる。人を修飾する際に、配慮性からみると、「(の)ような」がよく使われる。それは「など」が人を修飾する際にマイナス的な評価を伴う傾向が強く見られるからである。

(20)　予想した以上の悪い事態だった。そんな種類の人間と接触すれば、義雄<u>など</u>簡単に手玉に取られるに違いなかった。　（創業家の二人の女）

(21)　それどころか、恵美子さん<u>のような</u>知的で美しいひとが、いつも近くにいてくれるということの方が嬉しく、私たちはとても…　（詩小説）

4. おわりに

まず、日本語の「など」と「(の)ような」を比較した結果を述べる。「など」の場合、前接要素が単一要素か複数要素かという点には、特に差が見られないのに対し、

「(の)ような」は主に単一要素に集中している。それは「など」が列挙を表すのに対し、「(の)ような」が同類例示を表すからであると考えられる。

次に、日本語と中国語を対照した結果を述べる。コーパス調査の結果からわかるように、日本語において、人を修飾する際に、「など」より「(の)ような」がよく使われる。それは、「(の)ような」と比べ、「など」の配慮性がやや弱いことが原因であると言えるだろう。一方、中国語では、“等”や“这样”がよく使われ、配慮性が強いのに対し、“之类”や“一类”はあまり使われておらず、配慮性が弱いと言える。

5. 今後の課題

最後に今後の課題について述べる。日本語では「XX 先生など」と言った場合には配慮が足りないような気がする。公の場で「A 先生や B 先生などの先生方でできた研究グループ」ならまだ良いが、本人がいるような場合なら、やはり「など」でまとめるのは少し気にかかる。名前をあげるか、あげないか、あげる場合、どのような形であげるかということに関しては留意すべき点であろう。今後は、より現場的な場面や、日常生活において行われる会話、人の名前をあげる時など、「など」、「(の)ような」が関わる言語使用の状況について、調査していきたい。

付記

本稿は、外交部中日韓合作研究中心（江西師範大学）による助成を受けている。特記して感謝の意を申し上げる。また、本論文は江西省社会科学研究规划项目《基于语料库的日语对现代汉语的影响研究》（項目号：19YY24）の研究成果である。

参考文献

【日本語文献】

今井喜昭（1995）「「など」についての一見解」『日语学习与研究』Vol.79，No.1，p.27

桜岡卓（2012）「「など」「なぞ」「なんぞ」「なんか」の変遷：明治期から現代まで」（二〇一一年度卒業論文要旨集）『札幌国語研究』Vol.17，p.96

馮元（2017）「日本語の「のような」と中国語の列挙助詞について」『日本語と日本文学』Vol.61･62，pp.13-28

牧原功（2012）「日本語の配慮表現に関わる文法カテゴリー」『群馬大学国際教育・研究センタ

一論集』Vol.11, pp.1-14
山岡政紀・牧原功・小野正樹（2010）『コミュニケーション配慮表現』明治書院
山口堯二（1988）「副助詞「など」とその周辺」『語文』Vol.50, pp.22-31

【中国語文献】
陈丹（2010）〈“～ような”的多义性〉《语文学刊・外语教育教学》Vol.9, pp.19-22
陈连冬（2016）〈日语源于「なに」的焦点助辞语法化之探讨〉《日语学习与研究》Vol.185, No.4, pp.46-58

【コーパスデータ】
現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）（通常版）国立国語研究所（http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon）
现代汉语语料库（BCC コーパス）北京语言大学（ http://bcc.blcu.edu.cn）
中日対訳コーパス（第一版）北京日本語学研究センター

ヒョウ　ゲン／江西財経大学